

《Lesson 1》 いる・ある（肯定文）

今回学ぶのは「この教室には30人の生徒が**いる**」「大きなカレンダーが壁に**ある**」といった「いる・ある（現在形）」を表す文と「この教室には30人の生徒が**いた**」「大きなカレンダーが壁に**あった**」といった「いた・あった（過去形）」を表す文についてです。基本の形は以下の通りです。

There + be 動詞 + 。

【注意点】

1. ここで登場する **there** は「そこ・あそこ」という意味ではない。
2. **be** 動詞の使い分けは「単数 / 不可算名詞 or 複数」「現在 or 過去」で使い分ける。

単数/不可算（現在） = is	複数（現在） = are
単数/不可算（過去） = was	複数（過去） = were

- <例> **There is** an old camera in the office. (オフィスに古いカメラがあります)
There are 30 students in this classroom. (この教室に、30名の生徒がいます)
There was water in the refrigerator. (冷蔵庫の中に水があります)
There were some apples on the table. (テーブルの上にくっつかリンゴがあります)

【作り方】

- ステップ1. 「ある・いる」の部分のをぞいて「**名詞+場所**」の文を作る。
ステップ2. 「単数・複数・不可算」と「現在・過去」を確認し、**there + be 動詞** の形を文頭に足す。

<例1> 「古いカメラがオフィスにあります」という文の場合。

- ステップ1. 「ある・いる」の部分のをぞいて「**名詞+場所**」の文を作る。
→ 「古いカメラがオフィスにある」

an old camera in the office

- ステップ2. 「単数・複数・不可算」と「現在・過去」を確認し、**there + be 動詞** の形を文頭に足す。
→ 「古いカメラがある」 = 「**単数・現在**」

There is an old camera in the office.

<例 2> 「テーブルの上いくつかリンゴがありました」という文の場合。

ステップ 1. 「ある・いる」の部分のをぞいて「名詞+場所」の文を作る。

→ 「テーブルの上いくつかのリンゴ」

_____ some apples on the table _____

ステップ 2. 「単数・複数・不可算」と「現在・過去」を確認し、**there + be 動詞** の形を文頭に足す。

→ 「いくつかのリンゴがありました」 = 「複数・過去」

_____ There were some apples on the table. _____

【ポイント】

(1) A and B と複数がある場合は、There are/were A and B の形

例えば「1 匹の犬と 1 匹の猫」がいると言いたい場合、基本的に There are ~. や There were ~. の形が使われます。そのため、

- **There are a dog and a cat ~.**
- **There were a dog and a cat ~.**

となります。しかし、会話などの「くだけた場」では、There is ~. / There was ~. を用いられることもあります。

(2) (主にスピーキングの際に使われる) There is / was の短縮形 = There's

短縮形は、主にスピーキングで使われるのですが（そのため、ライティングでは基本的に省略形は使わない）There is / was は、There's と短縮されることが多いです（この際、is/was のどちらが使われているかは文脈で判断）。しかし、There are / were を There're と短縮させることはあまりありません。理由は定かではないのですが「発音しづらいから」という意見は聞いたことがあります。

<例> **I think there's (there is) an example on the worksheet.**

(例がワークシートにあると思います)

When I came back, there's (there was) a new computer on the table.

(私が戻って来た時、テーブルの上に新しいパソコンがありました)